

第三者意見



藺田 綾子 (そのだ あやこ) 様
株式会社クlean 代表取締役
NPO法人サステナビリティ日本
フォーラム 事務局長

兵庫県西宮市生まれ。1988年、クleanを設立。1995年ころから、環境・CSRコンサルティングをスタート。現在は、延べ約500社のCSRコンサルティングやCSR報告書・統合報告書の企画制作を支援。NPO法人サステナビリティ日本フォーラム事務局長、NPO法人社会的責任投資フォーラム理事、日経ソーシャルイニシアチブ大賞審査員などを務める。

著書、共著に「環境ビジネスウィメン〜11人 成功の原点と輝く生き方」(日経BP社)、「サステナビリティと本質的CSR」(三和書籍)など。

博報堂DYグループが基本理念とビジョンを共有し、日々の仕事を通じて実践している姿は、素晴らしいお手本です。特に、Advanced CSRでは、「もっと社会のためにできることはないか?」と考え、新たなムーブメントを創造しています。自らの「クリエイティブの力」「伝える力」「一人ひとりの個性」が発揮されている点も博報堂DYグループらしさとなっています。2014年以上に活動範囲やテーマも広がり、社内意識浸透は高く評価できますが、結果的にどのぐらいの社会課題解決やブランド価値向上につながっているか、わかりにくいのが残念です。

ここで、ぜひトライしていただきたいのがAdvanced CSRの効果測定にもなる「ソーシャルインパクト評価」の発明です。例えば、国連の「持続可能な開発目標 (SDGs)」などの世界が抱える社会環境問題の解決に向けて、どう役立ちプレミアムな価値を生み出すのか、シンプルに見える化できるクリエイティブなツール開発を期待します。欧米で広がっているSROI*1をベースにすれば投資判断にも活用できます。

Basic CSRについては、ISO26000と国連グローバル・コンパクトをベースとしていますが、ぜひGRIガイドライン (G4) のマテリアリティ (博報堂DYグループが注力すべきテーマ) の特定も進めてください。ビジョンを実現するKPIがないため、PDCAがない状況です。機関投資家のESG*2への関心が高まっている背景からも、情報開示のレベルアップが求められます。「コーポレートガバナンス・コード」を反映させた中期経営計画の策定や実践のためのグループ横断的な組織体制の構築などは、長期的な企業価値の向上となる統合報告への貴重なステップと捉えてください。きっと、多様なイノベーションを生み出す風土が醸成され、世界最強のレジリエントな総合マーケティング・ソリューション企業になると確信しています。

*1 SROI (=Social Return On Investment : 社会的投資収益率) 事業によってもたらされた社会的価値をステークホルダーごとに明確にし、貨幣価値に換算する手法

*2 ESG (=Environmental (環境)、Social (社会)、Governance (企業統治 : ガバナンス) のこと。ESGに配慮した投資が主流になりつつある。



博報堂DYホールディングス
代表取締役副社長
沢田 邦彦

第三者意見を受けて

藺田様には2014年に引き続き、当社グループのCSRへの貴重なご意見をいただき感謝申し上げます。

2014年、博報堂DYグループ初のCSRレポートを刊行しましたが、ステークホルダーの皆様からさまざまなご意見を頂戴することができました。

またグループ社員からも「ぜひ自分のCSR活動も取り上げてほしい」という声が多数寄せられ、あらためて企業のCSR活動の重要性を感じました。

2015年度はAdvanced CSR、Basic CSRともに、紹介事例の数を増やし、幅を広げることで、「これならば自分にもできる」とグループ社員がCSR活動への参加意識を持ってくれることを期待しています。

藺田様がおっしゃる、「Advanced CSRのソーシャルインパクト評価」という発想は有意義であり、グループのCSRが社会にどのような影響を与えているのかを知ることは重要と考えています。

「コーポレートガバナンス・コード」に関しましては、企業成長の「機会」と捉え、中期的な企業価値の向上にチャレンジしてまいります。

本レポートをお手に取ってくださったステークホルダーの皆様からのご意見、ご感想をお待ちいたしております。

